

「どうしたら永遠のいのちが得られるか」

ヨハネの福音書 6章 32節～40節

はじめに

イエス様がこの世におられるとき、ご自分のところにやって来た多くの人々に5つのパンと2つのさかなから、彼らが満腹するほどのパンとさかなをお与えになりました（ヨハネ 6:1-14）。

今朝読む聖書箇所は、その「パンの奇跡」の意味が明らかにされる箇所です。

1 わたしの父は、天からのまことのパンをあたえる（32）。

パンの奇跡にあずかった人々が、イエス様を捜してイエスのみもとに来たとき、イエス様は「あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです」とおっしゃいました（26）

つまり、彼らはあの奇跡から何の霊的な真理をも学ばず、ただお腹がいっぱいになったことを喜んだだけだったのです。

それに対してイエス様は、あの奇跡の意味を明らかになさいました。それは、「わたしの父」すなわち、天の神様が「天からのまことのパンをお与えになる」ことでした。そのパンは「天から下って来て、世にいのちをあたえるもの」とであると、イエス様は言われました（33）。

2 わたしがいのちのパンです。（35）。

神様が天から与える「まことのパン」こそわたしのことだと、イエス様は言われました。ですから、イエス様のところに来る者、イエス様を信じる者は、飢えることも、渴くこともないのです。私たちにとっての本当のいのちだからです。ここから、次の三つの大切な教えを学びましょう。

（1）父がわたしに与える者はみな、わたしのところに来る（37）。

「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません」（44）。

ここには父なる神の主権、選びの絶対性が教えられています。人間は、自分の力で神様を信じることは出来ないのです。

（2）わたしのところに来る者を、わたしは決して捨てない（37）。

ここには、イエス様の救いの絶対安全性が教えられています。

（3）信じる者は永遠のいのちを持ちます（45）。

「どうしたら、永遠のいのちが得られるのか」。その答えがここにあります。先にイエス様は、こうも言われました。「事実、わたしのちちのみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです」（40）。

永遠のいのちを持つために必要なことは、「私たちが何かをすること」で

はなく、「いのちのパンであるイエス様」を食べること、つまり信じることなのです（51）。

3 聖餐式は、私たちがイエス様のものであり、イエス様によって養われる事を表しています（53-58）。

イエス様は、「わたしは天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きています。またわたしと与えようとするパンは、世のいのちのためのわたしの肉です」と言われました（51）。

このことから、イエス様は、教会で行われる聖餐式を教えられました。「人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません」（53）。

聖餐式の意味は、「イエス・キリストの十字架の贖い」を表すものですが、同時に、信じる者とキリストとのいのちの交わりを表します。イエス様はこう言われました。「わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物だからです」（55）。「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしも彼のうちにとどまります」（56）。

聖餐式にあずかる時、私たちは自分がキリストのものであり、キリストが私たちのうちにとどまること、私たちはキリストのいのちのよって生きていることを確認させられるのです。

勧めのことは

(1) 永遠のいのちは、イエス・キリスト信じることによって神様から与えられるものです。イエス様はこう言われました。「その永遠のいのちとは、彼らが唯一の神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストを知ることです」（ヨハ 17:3）。イエス・キリストを知ることが永遠のいのちです。

だれでも、いつかは死にます。死んだらどうなるのでしょうか。多くの人には分からないと言います。そのくせ、死んだ人に手を合わせたり助けを求めたりします。あなたは、死んだらどこに生きていますか？イエス・キリストを信じる者は、はっきり「自分は永遠のいのちを持っているから、神様とともに永遠に生きる」と言うことができます。

(2) イエス様は言われました。「なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい」（6:27）。

どのような仕事をするにしても、生活のためにするのではなく、イエス・キリストのためにしましょう。

イエス・キリストは言われました。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがこれらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者のひとりにしたのは、わたしにしたのです」（マタイ 25:40）

お金のためにしても、お金はいつかなくなります。家族のために働いても、家族もいつかなくなるのです。イエス様のためにしたことだけが、いつまでも残ります。